

永明小学校永明中学校新校舎及び永明社会体育館の概要

■ 新校舎

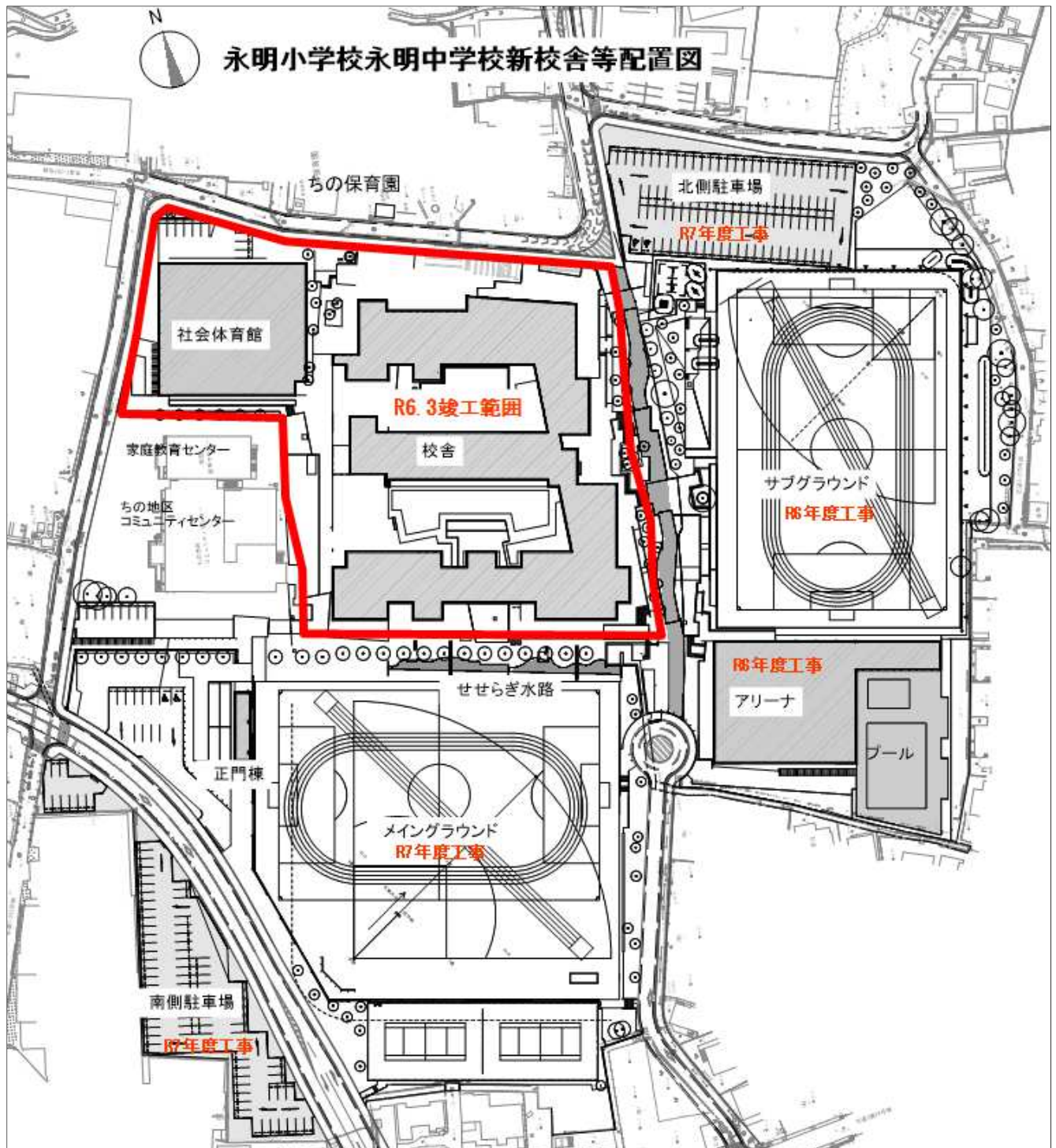
構造・階数 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 3階建て

床面積 13,677 m²

■ 永明社会体育館

構造・階数 鉄筋コンクリート造一部鉄骨造 2階建て

床面積 2,042 m²



■ 新校舎の特徴

○ 外観デザイン

周辺の住宅地に配慮し、地上3階建てとなるボリュームの圧迫感を軽減するため、建物周辺をぐるりとまわる庇や、ライトシェルフにより水平性を強調した端正なファサードとしています。また、永明寺山や八ヶ岳連峰の山並みに調和するように小さな勾配屋根の連なりで屋根並みをつくっています。



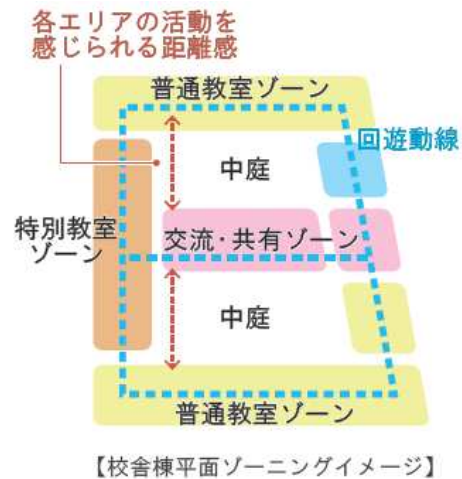
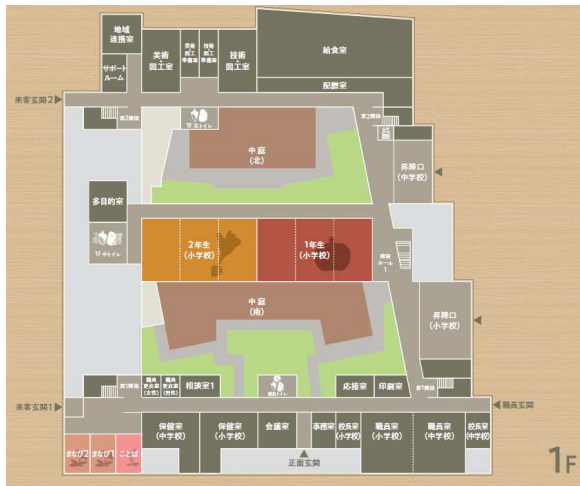
南側外観

○ 平面計画

交流・共有ゾーンを中心に据え、中庭を介して8の字型動線で各ゾーンがつながるコンパクトな平面計画としています。行き止まりがなく、回遊性のあるプランは、児童生徒の機能的な移動を促し活動が連続します。中央に中庭があることで、各エリアとも良好な採光、通風が確保できます。

普通教室は、全ての教室を南面させることで、十分な採光・採暖が得られる寒冷地に配慮した環境としています。また、教室のまとまりごとに、アメニティスペース（トイレ、手洗い）や教材庫を設けることで、使い勝手を高めています。

特別教室ゾーンや交流・共有ゾーンは、普通教室ゾーンとエリアを分けて配置することで、地域開放が可能な計画としています。



○ 内装デザイン

床・壁・建具・家具については、木質化を図り、木の暖かみに包まれた学習・生活環境としています。木の香りにより、情緒的な安定を感じることができます。

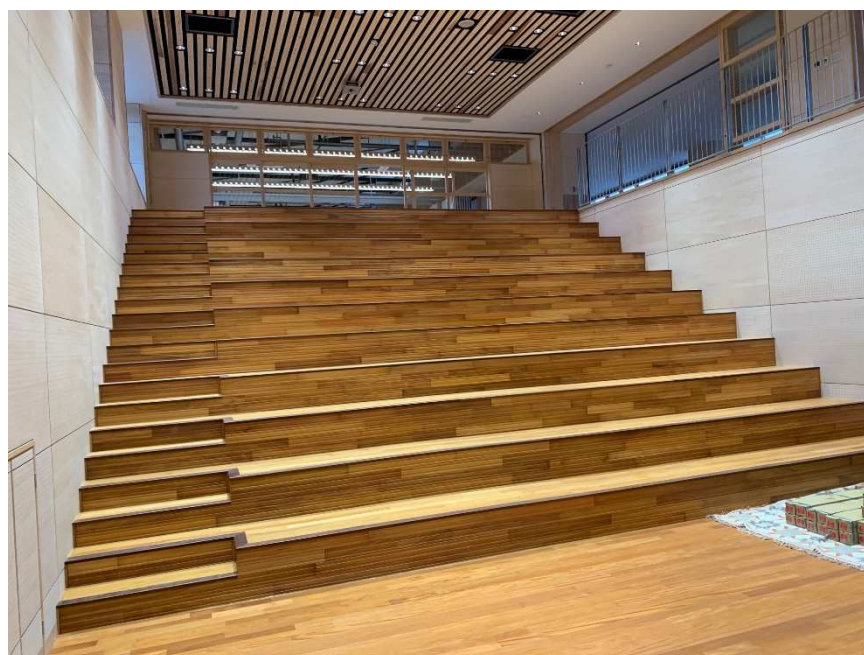
○ メディアセンター

学び・交流の拠点となるメディアセンターは、動線の要となる2階中央に配置することで、本を介した児童生徒の日常的な交流を促すことができます。メディアセンター内は、児童生徒が休み時間にふらっと立ち寄れるオープンな設えとした一方で、閲覧スペースは扉を閉じることで、落ち着いて授業が行うことができます。

また、プレゼンテーションスペースは、階段状の床が配置され、プロジェクターや音響装置を備えた、発表用途に対応したスペースです。



メディアセンター 図書スペース



メディアセンター プレゼンテーションスペース

○ 普通教室

学校生活の拠点となる普通教室廻りのスペースは、9年間を1つの校舎で過ごす長い学校生活に変化を与え、成長段階に合わせた間取りとしています。

小学1～2年生 — 教室内でゆやかに領域を分けて作業 —

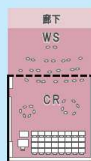
- ・ワークスペースは教室に内包し緩やかに領域を分ける
- ・総合教室型であり、教室内で図工の授業などを行うため、手洗いスペースを設置
- ・中庭には教室から直接出入りでき、植物の観察や休み時間に活用
- ・教員が長い時間教室にいるため、教員スペースを充実



小学1、2年生普通教室

小学3～5年生 — WSを含めた一体利用 —

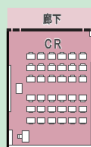
- ・各教室前に配置したワークスペースは、教室の拡張スペースとしてグループ学習などに使用する他、間仕切りを開けることで、学年集会など、学級間の活動にも使用可
- ・廊下とワークスペースはゆるやかに分け、他クラスや異学年に向けた共用部への発信スペースとする



小学3～5年生普通教室

小学6～中学3年生 — 落ち着いた学習空間を確保 —

- ・廊下と教室間は壁とし、しっかり分けることで、落ち着いた学習環境を確保
- ・ゆとりのある教室の大きさとして、体格に配慮しつつ、ディベートやグループ学習など多様な座席配置に対応可能



小学6～中学3年生普通教室

■ 永明社会体育館の特徴

地域のスポーツの振興、地域交流の推進及び教育の充実を図り、市民生活の向上に寄与するため、永明社会体育館を整備しました。

アリーナ（競技部分）、ステージ、ステージ両側に器具庫、ステージ下に倉庫、男子トイレ、女子トイレ、多機能トイレ、男子更衣室、女子更衣室、体育研究室、倉庫を有しています。

競技部分の広さは約1,080㎡、天井最高高さ11.5mです。

小学校、中学校の授業、部活動で使用する他、地域の方のスポーツ、イベントなどの使用を想定しています。



アリーナイメージ